HOKUSEI@COM

2008・JANUARY

vol.5

HOKUSEI GAKUEN UNIVERSITY
COMMUNICATION MAGAZINE WINTER EDITION

北星学園大学
北星学園大学短期大学部

02-03
特集［先輩と話そう］
uhb北海道文化放送
ニュースキャスター
松本 裕子さん
インタビュー

02-03
夢をかなえる合言葉は
“Smiling makes you happy, makes Me happy!”
uhb北海道文化放送
報道制作局 報道部
松本 裕子さん

04-05
［学生達の素顔］
ミスさっぽろ&
ミスいわみざわが語る
学生として学んだこと、
ミスとして
伝えたいこと。

06
サークル活動
手話サークル［モナミ］
手と手でつなぐ、
つたえる、
友だちの輪。

07
先生たちのその素顔
経済学部　野本 啓介先生
国家を支えるODAと、
人を支えるボランティア。
どちらも
「国を知ること」が
第一歩。

08
HOKUSEI INFORMATION
北星学園大学からのお知らせ
☆大学図書館を
ぜひご利用ください。
☆ホストファミリーを
募集しています。

特集［先輩と話そう］ INTERVIEW

uhb北海道文化放送 ニュースキャスター　松本裕子さんインタビュー

夢をかなえる合言葉は “Smiling makes you happy, makes **Me** happy!”

「uhbスーパーニュース」のキャスターとして活躍中の松本裕子さん。北星学園女子短期大学（現・北星学園大学短期大学部）の卒業生であり、イギリス留学で培った英語と教養を武器に多彩なキャリアを重ねてきたスーパーウーマンでもあります。そんな憧れの先輩に、ふたりの後輩がuhbのスタジオでインタビュー。奇しくも女子大生レポーターとしてテレビの世界を垣間みているふたりが、松本さんの知性と強さと美しさの秘密に迫ります！

倒れるまで頑張った！ 充実のイギリス留学経験。

山口：松本さんは学生時代にイギリス留学をされていたそうですね。

松本：昔からイギリスが好きだったんです。英語はもちろん音楽、文学、映画、建築……イギリス文化のすべてを肌で感じてみたくて、短大に進学したら絶対に留学しようと決めていました。短大時代の半分をイギリスで過ごしたので、サークルに入る余裕もありませんでしたね。

小澤：当時を振り返って印象深い出来事などはありますか？

松本：大学ではいろいろな国の友人に恵まれました。ニカラグアやギリシア、韓国など国ごとに異なる文化や言語、価値観にふれたことは大きなカルチャーショックであり、自分の世界を広げるきっかけにもなりました。そして留学中は人生でいちばん勉強した1年間でもありました（笑）。私が留学したランカスター大学はとても厳しくて、膨大なレポート課題をこなすために睡眠2時間という日々も当たり前でした。頑張りすぎて倒れて救急車で運ばれたこともあるくらい。

山口・小澤：えーっ?!

松本：当時のレポートを読み返すとすごく難しいことが書いてあって、我ながら驚きます（笑）。とにかく大好きなイギリスで英語を話せるようになりたい、その一心で集中できたんでしょうね。限られた時間の中で、吸収できるものはすべて吸収しようと思っていた。短大時代はあっという間だったけれど、四年制大学に負けないくらい多くのことを学んだ2年間だったと思います。

たくさんの引き出しと自信を持つこと。

山口：学生時代からキャスターを志していたのですか？

松本：話すことは好きだったけれど、それを仕事にしようと思っていたわけではなく、好きな英語を活かして翻訳をやりたかったんです。でもそのためには語彙力はもちろん、知識や情報の“引き出し”をたくさん持たなくてはいけない。だから学生時代は勉強だけでなく、いろいろなことにトライしました。スポーツに熱中したり、図書館に入り浸って英米文学を原書で読んだり。周囲にはコミュニケーションツールとしての実践英語を学ぶ人が多かったけれど、私は自分の“引き出し”として蓄積できる英語を身につけたかったんです。それらは今でも私にとって大きな財産ですね。

小澤：プロフィールを拝見すると、卒業から現在までの経歴もユニークですね。

松本：行き当たりばったりです（笑）。短大卒業後に東京の翻訳学校に通ったものの、未熟な自分を痛感して再びイギリスに留学しました。海外でいろいろな人と接しているうちにコミュニケーションに興味が湧いてきて外資系企業の秘書に。その後キャビンアテンダントとしてたくさんの国へ行き、日本にあまり伝わっていない世界の現実を目の当たりにしたことで、それを自分の視点で多くの方に伝えたいと思うようになったんです。そして福井テレビのアナウンサーを経て現在に至ります。回り道をしたおかげでいろいろな世界を知ることができたし、今は一つひとつの点が線で結ばれたような気分。人生にムダな経験などひとつもない、と実感しています。

山口：これまでに経験された仕事を通じて学んだことはありますか？

松本：外資系企業はシビアな世界で、強い意志を持って自己主張できないと海外の女性たちとは戦えません。同じアジア人でもインドネシアの貧しい地方出身の同僚女性はキャリアアップのモチベーションがとても高く、キャリアを積むことで自信をつけていく姿が印象的でした。自信を持って自分をアピールできる人は、どんな職場でも自分らしく仕事ができるのではないかな、と思います。

PROFILE

松本裕子（まつもとゆうこ）

uhb北海道文化放送 報道制作局 報道部 ニュースキャスター
函館市生まれ。
北星学園女子短期大学英文学科英米文学コース卒業。
短大卒業後に東京の翻訳学校に1年間通ったのち、短大時代に留学していたイギリス・ランカスター大学に1年間留学。帰国後に東京の外資系企業秘書、キャセイパシフィック航空のキャビンアテンダントを経てフリーアナウンサーに。その後福井テレビでキャスターとして報道に携わるようになる。uhbで1年間記者兼ディレクターとして活動し、現在は「uhbスーパーニュース」のキャスターとして活躍中。

短期大学部 英文学科
2年 小澤 由花（おざわ ゆか）

MC(イベント司会)の仕事に興味があるので、さまざまな経験を積んでキャスターとして活躍する松本さんの言葉には説得力がありました。先輩のあとに続くことができるよう頑張ります!

短期大学部 英文学科
2年 山口この実（やまぐちこのみ）

私もオーストラリアに1年間留学していたので、松本さんの留学体験はとても興味深いものでした。マスコミの第一線で活躍するカッコいい女性が先輩であることを誇りに思います。

キャスターとして道民のみなさまへ伝えたいこと。

山口:秘書、キャビンアテンダント、キャスター。どれも女子学生が憧れる華やかな世界に思えますが、キャスターのキャリアがいちばん長いそうですね。

松本:今年で8年目になります。毎日カメラと向き合う緊張感、悲しいニュースを伝えなければならないときの胸の痛み……報道の仕事の9割はつらく厳しいことばかりです。でも確かに視聴者に伝わっているという残り1割のやりがいが、それをカバーして余りある歓びへとつながり、この仕事を続けていけるのだと思います。番組のホームページなどで感想や励ましをいただくこともあれば、お叱りを受けることもあります。でも、それも観ていただいている証ですからありがたいですね。

小澤:キャスターとして心がけていることはありますか?

松本:キャスターはただニュースを伝えればよいというわけではなく、自身のパーソナリティやものの見方が問われる仕事です。だからできるだけ現場に自分で出向き、自分の目で事実を見据えて考えることを大切にしています。とはいえニュースに主観が入ってはいけないので、さじ加減が難しいところ。ときには悲しいニュースを読みながら涙がこみあげることもありますが、取材させていただいた方のため、そして道民のみなさまのために、公正にニュースを伝えるよう努力しています。あとは気力と体力!睡眠をたっぷり取ること、もし失敗してもその日のうちに忘れることです(笑)。

山口:最後に後輩の私たちへ、先輩からメッセージをお願いします。

松本:2度の留学、さまざまな仕事……いずれも自分ひとりでは決して実現できなかったこと。夢を語りあった戦友のような短大時代の友人、仕事をともにしたスタッフなど、たくさんの人に支えられてここまで来ることができたことを思うと、出会いの大切さをつくづく感じます。キャビンアテンダント時代に先輩から“Smiling makes you happy,makes me happy.”と言われたことも忘れられません。笑顔は人を幸せにできる、そして自分も幸せになれる—いい言葉でしょ?人生にはいろいろなことがあるけれど、でこぼこ道でも背筋をピンと伸ばして笑顔で歩いていられたらすごくカッコいいと思うし、そういう人はきっと他人も自分も幸せにできるはず。どんなときも笑顔でいられる自分に自信をもって、チャンスをつかんでくださいね。

山口・小澤:本日はありがとうございました。

学生達の素顔

ミスさっぽろ＆ミスいわみざわが語る

学生として学んだこと、ミスとして伝えたいこと。

昨秋開催された北星学園大学・北星学園大学短期大学部大学祭「星学祭」で、本学の現役学生でミスさっぽろとミスいわみざわを務める2人の対談が行われました。一見華やかな舞台の裏で彼女たちが何を感じ、どう成長していったのか、ミスの役割と責任とは―ご自身も元ミスさっぽろの経歴を持つ本学短期大学部非常勤講師の青山さんをナビゲーターに、ミスの裏側に迫りました。

2007ミスさっぽろ
文学部英文学科
4年 坂本（さかもと） 佳子（よしこ）さん

◆

ミスとして社会的地位の高い方にお会いする機会も多く、社会人としてのマナーや常識が自然に身についたのも自分にとって大きな収穫でした。

2007ミスいわみざわ
文学部英文学科
4年 木村（きむら） 梨雅（りか）さん

◆

中国留学や茶道部部長としての活動と並び、ミスは大学時代の貴重な経験になりました。社会に出てもこの経験を活かしていきたいですね。

ナビゲーター
青山（あおやま） 夕香（ゆか）さん
（北星学園大学短期大学部非常勤講師）

◆

青山プロダクション代表・キャリアアドバイザー。2001年度ミスさっぽろ・2002年度宝くじ幸運の女神・2002＆2004年度ミス日本北海道地区代表。

就職活動、留学…応募のきっかけはさまざま。

青山：本日はお集まりいただきありがとうございます。私も2001年度ミスさっぽろを務めた経験があるので、おふたりの姿を見ると当時のことを思い出します。おふたりがミスに応募されたきっかけは何だったのですか?

坂本：ちょうど就職活動をスタートしていたのですが、なかなか面接がうまく行かずちょっと悩んでいたんです。それで景気づけのつもりで応募しました(笑)。まさか選ばれるとは思っていなかったので、名前を呼ばれたときは一瞬何が起こったかわかりませんでした。

木村：私は3月まで中国に留学していまして、帰国して坂本さんがミスさっぽろに選ばれたことを知りました。驚くと同時に私も何かにチャレンジしたいと思っていたところ、地元・岩見沢でミスを募集していることを知り、応募しました。

青山：英文学科から中国へ留学とはユニークですね。

木村：高校3年のときに全日本青少年英語弁論大会で優勝しまして、岩見沢市長から祝福のお言葉をいただいたんです。そのとき「これからは中国の時代がくる。大学ではぜひ中国語を第二外国語に」とアドバイスしていただいたのがきっかけとなりました。新たな学問への道をひらいてくださった市長にはとても感謝していますし、ミスいわみざわに応募する際にもこれがご恩返しになれば、という思いがありました。

青山：人との出会いが新たな目標につながっていくなんて、すばらしいですね。選ばれた日のことを覚えていますか?

木村：最終選考の日の夕方、自宅に連絡がきたのですぐに家族に報告したら爆笑されました。まさか選ばれるとは家族も思っていなかったようで(笑)。じつは私、幼いころは男の子と外で遊びまわり、高校ではストリートダンス、大学に入ってからは大型バイクでのツーリングに熱中するような行動派なんですよ。

坂本：私も審査結果がテレビ放映され、それを観た親戚から「エイプリルフール?」と電話がかかってきたり、友人の間でも硬式テニス部で汗を流しているイメージがあるせいか「信じられない」といわれたり(笑)。でもミスに選ばれてからテーブルマナーやスピーチなどのレッスンを受けるうちに“札幌の顔”としての自覚とふるまいが身についてきたように思います。

街の顔としての責任と、街への想いと。

青山：自分の可能性を広げたい、生まれ育った地域に貢献したいなど、ミスコンテストにチャレンジする動機はさまざまですが、難関を突破する上でのポイントは何だと思いますか?

坂本：笑顔と元気な受け答え、そしてさりげない気配りと強い意欲、でしょうか。外見ではなく内面の光るものを短い時間内で表現することは、就職活動にも通じるものがあって勉強になりました。

木村：あと、地域の概要やイベント、名産品などの知識を身につけておくこと。生まれ育った街でも意外と知らないことが多くて驚きましたね。先日も、東京在住の岩見沢出身者の親睦団体「東京いわみざわ会」に出席させていただいてお話を伺う機会があり、岩見沢の魅力をさまざまな角度から再発見できました。

「東京いわみざわ会」の懇親会でアシスタントを務める木村さん。(写真左)

青山：さまざまな街を訪問したり楽しいイベントも多い一方、ミスならではの大変さもありますよね。

木村：日常生活の中でも「見られている」緊張感、観光PRの顔として岩見沢市全体の評価にも関わっているという責任感を常に感じます。そのため笑顔を絶やさないことは必須ですね。でもイベントなどでは予期せぬハプニングが突然起きたりするので、正直に言いますと笑顔で対応するのが大変な時もあります。

坂本：ミスさっぽろの先輩に「空気を読み、空気に溶け込むことが大切」とアドバイスされたことがありますが、仕事をしていると実感しますね。昨年は北海道物産展のPRで東京や佐賀、名古屋などを訪問しましたが、北海道物産展は道外では行列ができるほど大人気なんです。だからイベントでも北海道や札幌に好印象を持っていただけるよう、さりとて目立ち過ぎぬよう気を遣います。

「2007さっぽろ菊まつり」で上田市長とともに来場者へ菊をプレゼントする坂本さん。(写真中央)

青山：街のイメージアップはミスの大切な役割ですね。おふたりから見たそれぞれの街の魅力についてお聞かせください。

坂本：札幌は四季の表情が豊かで、特に雪に包まれる冬の美しさは格別。ホワイトイルミネーションや雪まつりといった冬ならではの魅力を、地元の方に再発見していただけたらうれしいですね。また、人の温かさも札幌の魅力のひとつ。私が大学入学を機に札幌で暮らしはじめたころ、バスに乗ったものの目的地の停留所がわからず困っていたら、乗り合わせた女性がご自分の停留所を乗り越して教えてくださったんです。しかも運賃まで払っていただき「次に誰かを助けてあげてね」と…。こうして身をもって実感したからこそ自信を持ってアピールできるし、それが私自身の札幌への恩返しになるのでは、と思っています。

木村：岩見沢はお祭りが大好きな街。「ふるさと百餅(ひゃっぺい)まつり」や「彩花(さいか)まつり」「ドカ雪まつり」など、1年を通して楽しいイベントがいっぱいです。札幌市民のみなさんも、旭川方面へお出かけの際にはぜひ足を運んでください。

青山：札幌と岩見沢、異なる街のミスが顔を合わせる機会はめったにないので、おふたりがそろった今回のイベントはたいへん貴重なひとときとなりました。本日はありがとうございました。

サイン会では長蛇の列!

CIRCLES

手話サークル

［モナミ］

手と手でつなぐ、つたえる、友だちの輪。

社会福祉学部を設置する北星学園大学では、ボランティアや福祉に高い関心を持つ学生が少なくありません。手話サークル「モナミ」にもそんな学生が集い、ときには陽気に、ときには真面目に手話の勉強をしています。その活動ぶりを見てみましょう。

ピースではありません。ヒントはこのページのなかに･･･

見ぶり手ぶりでおしゃべりはずむ!

「モナミ」では週1回のレッスンのほか、北星学園大学附属高校で高校生に手話を教えたり、札幌手話サークル連絡協議会(札サ連)での交流を通じて手話技術に磨きをかけています。テレビの手話ニュースを観て興味を持ったという部長の工藤江理朝さんは「手話を日常的に使うろうあ者の方はスピードが速いし、一人ひとり個性的な言い回しなどがあるので、会話についていくだけでも大変。他大学の手話サークルもレベルが高いので、私たちも頑張ろうという気持ちになります」と語ります。

レッスンでは基本的な単語や文章の作り方を学習するほか、手話コーラスにも挑戦。新入部員の田中耕平さんも先輩のアドバイスを受けながら熱心に手を動かします。「正確な手の形はもちろん、表情豊かな表現力も大切。初めてろうあ者の方と手話で会話できたときの喜びは忘れられません」。

「モナミ(Mon amis)」はフランス語で「私の友だち」の意味。手と手が伝えあうメッセージ、つながっていく友達の輪は、ますます大きく広がっていきそうです。

［手話は世界共通語?］

世界各国はもとより、日本国内でも地方によっても手話の表現は異なります。「ところが世界で通用する手話をひとつだけ知っているんです」と田中さんが教えてくれたのがこれ。“I love you”を意味する、世界共通の表現なのだとか。なるほど、愛は国境を越えるのですね。

グループレッスンで基本的な表現を学ぶ姿は真剣そのもの。

Kiroroや槇原敬之などのおなじみの歌を手話でコーラス。

一昨年の大学祭では手話を使ったジェスチャー劇を上演しました。

部長の
工藤 江理朝(くどう えりさ)さん
社会福祉学部福祉臨床学科 2年
地域にお住まいのろうあ者の方、手話に興味がある方などにも気軽に見学に来ていただけるとうれしいですね。みんなでお待ちしています。

新入部員の
田中 耕平(たなか こうへい)さん
社会福祉学部福祉臨床学科 1年
いろいろな人と話してみたくて始めた手話。ろうあ者の方だけではなくサークル活動を通じてたくさんの友人ができたことも喜びのひとつです。

Featured Faculty Member

先生たちのその素顔

●経済学部　野本啓介先生●

国家を支えるODAと、人を支えるボランティア。どちらも「国を知ること」が第一歩。

PROFILE

野本 啓介（のもと けいすけ）

1989年 3月　慶應義塾大学法学部 政治学科卒業

1989年 4月 ～1994年4月　(株)日本興業銀行勤務

1996年 3月　慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科修士課程修了

1997年 2月 ～1999年2月　在ホーチミン日本国総領事館 専門調査員

1999年 4月 ～2002年3月　国際協力銀行（JBIC） 開発金融研究所 専門調査員

2002年 4月　北星学園大学経済学部 専任講師に着任

2006年 4月　同大学助教授に昇格（2007年より准教授）

経済・金融の最先端から、国際政治のスペシャリストへ転身。

今でこそ国際政治や国際協力政策を専門としている私ですが、大学卒業後に勤務した銀行ではバブルを経験しました。株価ボードの前で上下する数字に一喜一憂し、中小企業のトップと経営戦略を練りながら金融アドバイスをし、大手企業の破綻を目の当たりにし……経済の最先端で仕事ができたという点では恵まれていました。ただ、銀行が幅広い分野を手がけるゼネラリストを必要としているのに対して、私がめざしたいのはスペシャリストだと考えるようになったのです。それで銀行を辞め、大学院で国際政治の勉強を再開しました。その後ベトナムのホーチミンに外務省の調査員として駐在したのですが、最初はカルチャーショックを受けましたね。電気も水道もない地域も多かったし、政治体制の違いを目のあたりにしたり……でもそれは住んでみないと決して見えないベトナムの現実であり、自分がこの国でやるべきことを明確に把握するきっかけにもなりました。

先進国と途上国、双方のメリットを見据えたODA。

誤解されやすいのですが、ODA（政府開発援助）は外交政策のツールであり「貧しい国を助けるため」だけに行うものではありません。ODAを通じてその国の経済が成長・安定し、社会全体が成熟していくことで近隣国や先進各国との関係が良好に保たれる。そして国民の生活水準が良くなり、親日感情が高まれば、日本の将来的なメリットにつながっていく。その国の実状を冷静に分析し、あくまで日本の国益のために行う政策なんです。そう言うと学生に「先生は冷たい」と言われますが、私にとってそれはほめ言葉のようなもの（笑）。海外ボランティアなどの支援活動はすばらしいことですが、個人でできることは自ずと限られる。個人レベルと国家レベル、双方の支援策をそれぞれの特長を活かしつつバランスよく実施することが大切なのです。ベトナムもこの10年間でめざましい成長を遂げました。今後注目したいのは北朝鮮。将来的にはODAの可能性もあるので、知っておきたい国のひとつです。政情が不安定なミャンマーや、道民としては北方領土も気になる。未知の国がたくさんありますが、その国の実状を知ること。外交政策としてのODAも、個人のボランティアも、まずはそれが第一歩です。

《野本先生の主な著書》

●『新しい平和構築論』（山田満ほかと共編著／明石書店）

●『国際協力用語集（第3版）』（平和構築分野の編集委員／国際開発ジャーナル社）

●『ベトナムの国家機構』（白石昌也編・共著／明石書店）

2005年海外実習で訪れたカンボジア・タイ国境にて、参加学生とともに。

LIBRARY

地域にひらかれた、英知の森。

図書館

大学図書館をぜひご利用ください。

約40万冊の蔵書を有する本学図書館。教育・研究活動の礎となる学術書や死海写本などの貴重な宗教書をはじめ、話題のベストセラーや新着雑誌、外国書など多彩な知的好奇心に応える書籍を取り揃えています。本学図書館は地域のみなさまにも開放されています。18歳以上(高校生不可、その他留意事項※)ならどなたでもご利用いただけますので、お気軽にどうぞ。

※留意事項:大学図書館相互利用サービス、社会福祉系大学図書館会議相互利用サービス加盟館以外の大学の学生・教職員は、所属している図書館・機関等の「紹介状」・身分証明書をお持ちください。
閲覧・複写に限り利用できます。

●開館時間 ※( )内は学生の休暇中

月～木 8:45～22:00(～16:30)　金 曜 8:45～22:00(～20:00)
土 曜 8:45～20:00(～20:00)　日 曜 12:00～18:00(休館)

※貸出手続の受付は、閉館10分前に終了します。
※学校行事等で開館時間を変更する場合があります。
ホームページ等でご確認ください。

●ご利用方法

入退館には図書利用者カードが必要です。
身分証明書(免許証など)と顔写真(3cm×3cm)をご用意の上、
図書館2階カウンターで手続きしてください。

●ご利用範囲

館内資料の閲覧、複写、
貸出(図書3冊／2週間・雑誌1冊／3日間まで)
※資料により閲覧・貸出ができないものがあります。
※マルチメディアフロアの利用は本学卒業生のみとなります。
ご了承ください。

●お問い合わせ

北星学園大学 図書館／TEL:(011)891-2731(代表)

詳細は図書館ホームページ
(http://library.hokusei.ac.jp)をご覧ください。

HOST FAMILY

わが家から広がる、国際交流の輪。

ホストファミリー

ホストファミリーを募集しています。

本学では、海外大学との姉妹校提携による国際交流に力を入れています。その架け橋となるのが交換留学生。そこで本学では、アメリカやカナダからの留学生を家族の一員として受け入れてくださるご家庭(ホストファミリー)を募集しています。留学生はホームステイを通じて日本の文化や言葉を学ぶとともに、受け入れ先のご家族にとっても異文化交流の楽しさや新たな発見を得られる貴重な機会です。地域のみなさまのご協力をお待ちしています。

●準備していただくものについて

学生用の一部屋(和室も可)・寝具・勉強机

●言葉について

英語が通じなくてもかまいません。
必要に応じて本学がお手伝いいたします。

●ライフスタイルについて

大学生の子どもがひとり増えるようなものとお考えください。
食事や生活スタイルも普段のペースで、
留学生に合わせる必要はありません。

●費用負担について

本学のホームステイは、国際交流プログラムの一環として国際親善と相互理解のために、ホストファミリーのご好意により受入れていただくようお願いしておりますが、ご家庭での負担を軽減するため、留学生が食住費の一部を自己負担します。留学生が負担する食住費は、本学を通して全期間100日分を一括してホームステイ開始前にご指定の銀行口座に振込みます。

●お申込み・お問い合わせ

北星学園大学 学生支援課 国際教育係／TEL:011-891-2731(代表)

詳細は国際教育センターホームページ
(http://www.hokusei.ac.jp/kokusai/)をご覧ください。

Hokusei Gakuen University
北星学園大学
北星学園大学短期大学部

発行／広報委員会
〒004-8631 札幌市厚別区大谷地西2丁目3番1号
TEL 011-891-2731(代表)
URL http://www.hokusei.ac.jp
E-mail kikaku@hokusei.ac.jp

[広報誌『HOKUSEI@COM』第5号をお届けいたします]
タイトルの「COM」は「COMMUNITY(地域社会)」「COMMUNICATION(コミュニケーション)」の頭3文字を取ったもので、本誌が北星学園大学と地域のみなさまを結ぶ架け橋となるように、との願いをこめたネーミングです。

R100 古紙配合率100%再生紙を使用しています。